

実践記録

78

シリーズ

第55回新潟県公民館大会 実践事例発表3から

地域ぐるみで 居場所づくり

村上市生涯学習課公民館係
係長 倉松 淳志

◆はじめに

いじめや、不登校、粗暴犯の増加など青少年をめぐる様々な問題が起きています。その解決策として「奉仕活動・体験活動」があげられ、社会全体で奨励・支援のための方策がとられています。村上市でも、今年度から文部科学省の新規事業、子どもの居場所づくり新プラン「地域子ども教室推進事業」に取り組み、地域の人、物、金（助成金）などの教育財を有効活用する取り組みをはじめました。いかにこの教育財をうまく結び付け、地域ぐるみの活動ができるかが、これからの課題です。

◆公民館の組織・概要（省略）

◆事業の背景

1. 基準や答申の流れ

平成15年6月に、公民館の設置運営に関する基準が全部改正となりました。平成13年の社会教育法の一部改正や平成14年の中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」を踏まえ、公民館でも体験活動に関する学習機会・学習情報の提供の充実に努めるよう新たに規定が追加されました。

2. 地域課題等

(1) 不登校

平成16年度、不登校割合は前年度より低下してきていますが、県平均と比べると高く、市の重要課題の一つになっています。今年度、学校教育課は、ふれあいルーム（適応指導教室）の職員を増員し、取り組みの強化を図っています。

(2) 体力低下

村上市岩船郡における体力テストの結果は、全体的にはほぼ県平均並みですが、全国と比較すると低い水準にあります。「村上市岩船郡小学校児童の体力向上のための方策」についての答申（平成16年1月）では、地域社会でも、児童が体を動かすための環境の整備と充実などの取り組みが必要と提言されています。

(3) 読書活動

県内の小学生の読書量が全国平均よりも低い状況にあります。今年3月に策定された「新潟県子ども読書活動推進計画」を踏まえ、当市も読書活動を推進する取り組みが必要です。

(4) 子どもフリースペース

核家族化、少子・高齢化に伴い、子どもフリースペース（居場所）の設置が、県内外の公民館で広がっています。当公民館においても居場所づくりのあり方を検討する必要があります。

3. 財政と事業見直し

長く低迷する経済や三位一体改革により、今年度も厳しい予算編成となりました。公民館事業についても、大きな見直しが必要となり、一つ一つの事業について担当者が事業評価をし、今後の必要性について職員全員で協議しました。その結果、類似事業の統合、県外の国立自然の家などを拠点とした活動は休止となりました。

今年度の補助・委託事業は、「子どもゆめ基金」、「学校内外を通じた奉仕活動・体験活動推進事業」、「地域子ども教室推進事業」、「家庭教育支援総合推進事業」です。

4. 村上市体験活動ボランティア支援センター

社会教育係では、平成14年度から学校内外を通じた奉仕活動体験活動推進事業として、村上市体験活動ボランティア支援センターを設置して、学校での総合的な学習の時間等の支援相談窓口としての役割をスタートさせました。今年度委託の最終年度ですが、青少年のボランティアの受け入れ調査と学校への提供、学習プログラムの共有化へ向けた整備、生涯学習アドバイザーリストの見直しなどの業務を進めています。

◆わくわくキッズクラブ

このような答申や地域課題等の背景のもと、子どもの体力向上、楽しい読書活動の奨励、公民館を居場所とした体験活動を促進するため、今年度から文部科学省の子どもの居場所づくり新プラン「地域子ども教室推進事業」に計画申請しました。

当市は、放課後児童健全育成事業が行われていることから、活動日は

放課後の活動ではなく、土曜日の午前、午後に設定しました。異年齢交流や体験活動などを通じて、子どもたちの自主性・創造性・社会性などを育むことをねらいとし、地域で子どもを育てるという視点で事業計画しました。

(概要)

1. 活動場所

活動内容に応じて、中央公民館、村上小学校体育館、村上南小学校体育館、二之町児童館を会場としています。

2. 活動時間

土曜日の午前9時30分から11時30分、二之町児童館は午後1時30分から午後3時です。

3. 活動内容

活動指導員による体験活動やレクリエーションスポーツ、自由な遊び、読み聞かせです。

4. 運営体制

村上市子ども教室実行委員会（下記、構成団体）

体験活動の支援者として、ご協力いただけそうな団体に依頼し、実行委員の構成団体になっていただきました。

構成団体		構成団体	
1	小中学校代表	10	体育指導員協議会
2	県退職公務員連盟岩船郡村上市支部	11	スポーツボランティア
3	PTA代表	12	いわふね青年会議所
4	村上市文化協会	13	市ボランティア連絡協議会
5	読み聞かせグループ「たんぼほ」	14	NPO岐阜沙羅パートナーズセンター
6	村上市老人クラブ連合会	15	健康福祉課（元気こども室）
7	村上市婦人会	16	学校教育課
8	社会教育委員	17	生涯学習課
9	生涯学習審議会		

5. 家庭、学校、地域の相互連携

文部科学省で作成された実施のための手引きを参考にしています。広報活動では、公民館が全面的に行うのではなく、地域の大人が協力・参加する事で、多様な活動が可能になることや、触れ合いの大切さなどをアピールしました。学校には、募集案内の配布依頼など、子どもたちへの参加呼びかけにご協力頂きました。

6. 安全の配慮

昨年9月に当市において、略取誘拐事件が発生したことから、文部科学省で作成された安全管理マニュアルの概略版として、安全管理マニュアルを作成しました。研修会として、下記の内容を計画しました。

①安全管理研修会		②不審者予防と侵入時の対応	
講師	小学校養護教諭	講師	警察署職員
内容	・過去の事例から見た注意事項 ・子どもの行動特性について ・学校でのケガについて	内容	・不審者予防について ・侵入時の対応策について

7. 体験活動ニーズアンケート調査（省略 大会資料 P31参照）

8. 活動カレンダー（省略 大会資料 P32参照）

◆終わりに（自主継続に向けて）

4月から準備を進めてきましたが、新たな取り組みだけに、細部にまで準備が行き届かない点もあります。今後、当市では、行財政構造改革にむけた全事務事業の見直しや、合併事務も予測されるなど、人員的に苦しい事業展開となるように思います。

事業の最終目標である自主継続できるようにするためには、家庭・学校・地域で連携して、お互いに協力し合って運営する、地域社会に組織される環境を作ることが重要であると思います。

また、子どもたちは人との関わりの中から、社会のルールやコミュニケーション能力、相手を思いやる心などが生まれ、成長していくということの大切さを、核家族や少子高齢化が進んでいる今こそ、再認識することも必要かと思えます。

数年前までは、町内単位でも運動会が盛んに行われ、町内で集まる場がありましたが、何らかの事情により、少なくなってきました。大人の事情もあるかと思いますが、地域での人間関係の希薄化も指摘される今、体験活動を意図的に企画・計画することが必要かと思えます。

子どもを取り巻く課題を共通認識し、ねらいをはっきり定め、地域を挙げて取り組むことこそ、地域コミュニティの再生につながるものと思います。議論ばかりではなく、行動する一歩が大切かのように思います。その一歩を踏み出したとき、大勢の支援者が集ってくることを願って…。